

# 平成26年度の事業概況

## 主要勘定の状況

### 預金

預金残高は前期比3,463百万円増加し、113,802百万円となりました。定期性預金は前期比1,628百万円増、要求性払預金は1,835百万円増となりました。総預金に占める個人預金の割合は80.6%（前期末比△0.6%）となりました。

#### 預金残高の推移



#### 個人預金残高の推移



### 貸出金

貸出金残高は前期比1,527百万円増加し、60,516百万円となりました。建設業への貸出残高は減少したものの、製造業、不動産業、卸売業・小売業及び地方公共団体への貸出が増加しております。

#### 貸出金残高の推移



#### 個人向けの消費資金及び住宅資金の貸出残高の推移



### 預け金、有価証券

預け金とは、預金の支払準備、手形交換決済資金、為替決済資金の他、余裕資金運用としての定期性預金などで信金中央金庫やその他の金融機関に預けている預金のことです。平成26年度は前期比1,244百万円増加し、25,395百万円となりました。

有価証券は収益資産であるとともに、現金・預け金に次ぐ支払準備資産となるもので、その運用に際しては流動性、健全性の確保に努めています。平成26年度は前期比1,530百万円減少し、32,431百万円となりました。

#### 預け金残高の推移



#### 有価証券残高の推移



## 損益の状況

### ■ 業務純益

平成26年度の業務粗利益は資金利益の減少により前期比69百万円減少しました。また経営合理化による経費削減を進めたものの、業務純益は前期比52百万円減少となっております。業務純益とは、一般企業でいう営業利益にあたるもので、金融機関の収益力を示す重要な指標です。

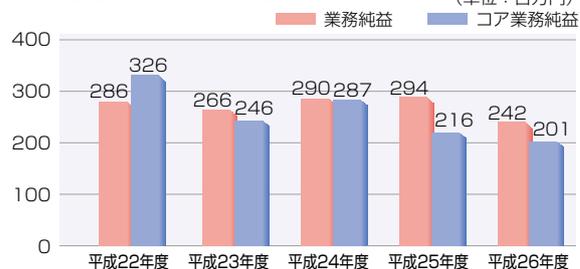
また、平成26年度の当金庫のコア業務純益は、前期比14百万円減少の201百万円となりました。業務純益から一般貸倒引当金繰入前、有価証券売買損益控除後のコア業務純益は、金融機関の本来業務による純粋な収益力を表す指標です。また、コア業務純益は不良債権処理のための原資になるものでもあり、不良債権処理能力を測る点でも注目されております。

(単位：百万円)

科 目	平成25年度	平成26年度
業 務 純 益 ①=(②-④-⑤)	294	242
業 務 粗 利 益 ②	1,817	1,748
うち国債等債券関係損益 ③	38	42
一般貸倒引当金繰入額 ④	△ 40	1
経費(臨時的経費を除く) ⑤	1,563	1,504
コ ア 業 務 純 益 (①-③+④)	216	201

### ■ 業務純益・コア業務純益の推移

(単位：百万円)



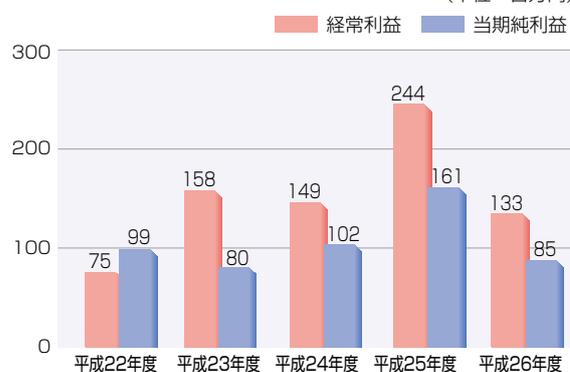
### ■ 経常利益・当期純利益

経常収益は2,071百万円(前年度比△73百万円、△3.40%)となり、経常費用は1,938百万円(前年度比37百万円、+1.98%)となったことから、経常利益は133百万円(前年度比△110百万円、△45.36%)となりました。

また、当期純利益は85百万円(前年度比△75百万円、△46.88%)となりました。

### ■ 経常利益・当期純利益の推移

(単位：百万円)



## トピックス

渉外係および窓口係の営業力向上を目的としたロールプレイング大会を開催いたしました。

